

2002.4.11

# 現代日本論演習Ⅰ

## 現代日本文化に関する論文講読

東北大学文学部2002年度

田中 重人 (講師)

# 【目的】

- 論文の探しかた
- 論文の読みかた
- プレゼンテーション
- 現代日本文化の知識

# 【予定】

- イントロダクション (4/11)
- 論文検索 (4/18 ?)
- プレゼンテーションの技法 (4/25 ?)
- 各論文の報告 (5/2～7/18)  
(1本につき4人で2週間)

論文は最初の1本だけ用意している：

竹ノ下 弘久 (2001) 「滞日中国人の世帯類型と滞日をめぐる将来展望」 『季刊家計経済研究』 51: 79-88。

以降は受講者が選んだものから  
(計6本の予定)

# 【論文の読みかた】

- ロジック(結論—根拠)
- 構造(目次)
- 図表
- 鍵概念(定義・用例、類義語)

# 【報告の準備】

提示資料 (パソコン、OHP、スライド)

- 文字は大きく (最低でも 20pt)
- 飾りのない文字 (ゴシックなど)
- 文章をすくなく、図を多く

ゴシック

漢

目

明朝

漢

目

## ハンドアウト (配布資料)

- 提示資料よりも詳しい情報を
- 論文としての体裁を整える
- 日付・授業名・報告者名・所属を書く



# 【プレゼンテーション】

- ★ 組み立てをよく考えて、練習する
- ★ 報告用原稿をつくるか、  
提示資料のコピーにメモを書いておく
- ★ 時間を厳守すること

## ★ 画面の指示のしかた

- ・ 指示棒
- ・ Laser Pointer
- ・ マウスポインタ
- ・ アニメーションの活用

## ★ 聴衆の反応を見ながら話すこと

## ★ 聴く側も報告者の顔を見て 反応を返す